

スクールインターンシップでの学び

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 匿名

この度、私はスクールインターンシップに参加し、教師の仕事を体験させていただきました。4月の出願に始まり、2回の事前指導を経て研修に参加しました。研修が終わってからは1月に報告会があり、それぞれの活動を報告しました。振り返ると、1年間を通してたくさんの学びを得た経験であったと感じます。

そもそも、スクールインターンシップとは何か、教育実習と何が違うのかと疑問に感じる方もいると思います。まず、教育実習と違う点は授業を担当することができず、見学と授業補助が主な活動になるということです。その点、私はたくさんの授業や行事を見学することができ、たくさんの学びを得ることができました。また、私は長期型のインターンシップを選択し、9月末から12月初旬の毎週金曜日、10日間研修に行きました。中学校の場合、学校と関わる日数が少ないことや週一回で参加できることも教育実習との違いであると思います。

私は保健体育科の教員免許取得を希望しているため、研修中は保健体育科の先生に担当していただきました。研修は保健体育の授業を見学するだけではなく、学級に参加して朝学活と終学活をしたり、他の教科の授業を見学したりしました。10月には体育大会があり、その準備や補助も担当しました。

授業を見学するなかで、先生の話し方や発問の仕方、師範の見せ方などを学びました。中でも特に学びがあったのは、ICTの活用でした。私が見学した柔道の授業では、4人のグループを作り、2人が投げ技を行い、残りの2人がそれを撮影するという授業を行っていました。生徒は撮影された試技を確認し、インターネットにある模範動画と比較していました。その間、先生は全体を見渡して安全に配慮しながら、個々の生徒にアドバイスを与えていました。私が驚いたのは、ICTを導入することで生徒が自ら学び、教師がそれを支える個別最適な学びが実現されていたということでした。私はこの授業に、教育にICTを導入することの可能性を感じました。

授業以外でも生徒とのコミュニケーションの取り方や授業準備など、学んだことはたくさんありました。そして何よりも、教師の一日の仕事や職員室の様子など、学校の雰囲気を感じられたことに、インターンシップに参加した意義があったと感じます。これは大学で授業を受けるだけでは感じられない貴重な経験で、教師として働くことをイメージするうえで大切なことであると思います。

私はスクールインターンシップを通して、このような学びや嬉しいことがあった半面、生徒とコミュニケーションをとることの難しさや、うまく授業を補助できない苦しさを感じたこともありました。また、先生方がとても忙しく働いているのを目の当たりにして、教師になれるのか悩んだこともありました。ただ、それらのことに直面し、乗り越えようとする中で、教師として働くことの覚悟や自覚が芽生えたと感じています。教師を志望する学生や将来の選択肢として考えている学生には、ぜひスクールインターンシップに参加してほしいと思います。